2/29(木)16:30 | 18:30

須藤健太郎著『作家主義以後　映画批評を再定義する』刊行記念イベント
Projection & discussion autour du livre « Après la politique des auteurs » de Kentaro Sudoh

『評伝ジャン・ユスターシュ』の著者で、弊学院でもこれまでに多くのレクチャー、トークを行われてきた映画批評家の須藤健太郎さんの初評論集の刊行を記念して、上映＆トークイベントを開催します。

©DR

ジャン・パンルヴェ短編集
Sélection de courts métrages de Jean Painlevé

監督であり生物学者でもあるジャン・パンルヴェ(1902–1989)は、野生動物についてのドキュメンタリーに革新的で詩的なアプローチを生み出した。彼の作品は、主に海洋生物を題材にした、形式的な独創性に富んだ、ユーモラスな遊び心を兼ね備えた繊細な映像作品である。

ウニ(フランス／1954年／11分／モノクロ)
タツノオトシゴ(フランス／1934年／13分／モノクロ)
吸血コウモリ(フランス／1939年／9分／モノクロ)
アセラ、または魔女の踊り(フランス／1972年／13分／モノクロ)

＊すべてデジタルレストア版・英語字幕のみ(上映前に須藤健太郎さんの作品解説あり)

©DR

アタラント号 *L'Atalante*

[フランス/1934年/88分/モノクロ/デジタル/日本語字幕付]
監督：ジャン・ヴィゴ　出演：ディタ・パルロ、ジャン・ダステ、ミシェル・シモン、ルイ・ルフェーブル

ル・アーブルとその上流の田舎町を往復している艀アタラント号の若き船長は美しい妻を迎える。しかし新妻は都会の誘惑にかられ、パリに近づいた折にこっそり抜け出してしまう…。熱に浮かされたように官能的で詩的なジャン・ヴィゴの傑作。離れていながら、恋焦がれ、悶え合うふたりの平行モンタージュはまさに映画のみが描き得る愛のシーン。「一方に失われた映像を求める者が、そして他方に失われた音声を求める者がいる。そんな二人がもう一度出会い、艀船の狭い船室で両者の大切さを確かめ合う」(須藤健太郎『作家主義以後』より)。

須藤健太郎(すどう・けんたろう)
1980年生まれ。映画批評家。現在、東京都立大学人文社会学部助教。著書に『評伝ジャン・ユスターシュ』(共和国、2019)、訳書にニコル・ブルネーズ『映画の前衛とは何か』(現代思潮新社、2012)、『エリー・フォール映画論集 1920–1937』(ソリレス書店、2018)、ロラン・バルト『恋愛のディスクール ―― セミナーと未刊テクスト』(共訳、水声社、2021)、カイエ・デュ・シネマ編集部編、奥村昭夫訳『作家主義[新装改訂版]』(監修、フィルムアート社、2022)など。

作家主義以後
映画批評を再定義する

須藤健太郎＝著
四六判・並製｜448頁
本体：3,700＋税
ISBN 978-4-8459-2318-2

批評はいつも孤独から始まる。
ひとつの映画作品を問うことにおいて、映画そのものの存立を問う、その終わりなき営みとしての「映画批評」の可能性。『評伝ジャン・ユスターシュ』の俊英による、実験＝実践の記録。

上映スケジュール Calendrier

2/18(日)	12:45	**ジュ・テーム・モワ・ノン・プリュ**(90分) *Je t'aime moi non plus*
	15:00	**右側に気をつけろ**(81分) *Soigne ta droite*
	17:15	**ジェーン・バーキンのサーカス・ストーリー**(84分) *36 vues du pic Saint-Loup*
2/23(金・祝)	12:30	**太陽が知っている**(123分) *La Piscine*
	15:30	**映画のアトリエ**(講師：坂本安美)(90分)＊ Atelier cinéma par Abi Sakamoto
	17:45	**ラ・ピラート**(90分) *La Pirate*
2/24(土)	13:00	**右側に気をつけろ**(81分) *Soigne ta droite*
	15:15	**ジュ・テーム・モワ・ノン・プリュ**(90分) *Je t'aime moi non plus*
	17:30	**太陽が知っている**(123分) *La Piscine*
2/25(日)	11:00	**ジュ・テーム・モワ・ノン・プリュ**(90分) *Je t'aime moi non plus*
	13:15	**美しき諍い女**(240分) *La Belle noiseuse* 途中休憩10分あり
	18:15	**ジェーン・バーキンのサーカス・ストーリー**(84分) *36 vues du pic Saint-Loup*
2/29(木)	16:30	**ジャン・パンルヴェ短編集**(59分) *Sélection de courts métrages de Jean Painlevé* 上映前に須藤健太郎の作品解説あり précédé d'une présentation par Kentaro Sudoh
	18:30	**アタラント号**(88分) *L'Atalante* 上映後、須藤健太郎とのトークショーあり suivi d'une discussion avec Kentaro Sudoh

[入場料金]
一律1,100円 ＊但し、2/23(金・祝)の〈映画のアトリエ〉は1,500円
Peatix(http://ifjtokyo/peatix.com/view#)にて
2/9(金)12:00より発売

プログラムはやむを得ない事情により変更されることがありますが予めご了承ください。
上映開始15分前開場・全席自由(整理番号順)・上映開始10分後以降の入場はご遠慮ください。
窓口販売はございませんのでご注意ください。

[お問い合わせ]
東京日仏学院
〒162-8415 東京都新宿区市谷船河原町15
Tel. 03-5206-2500 | Fax. 03-5206-2501
www.institutfrancais.jp/tokyo/

ジェーン・バーキン追悼上映特集　主催：アンスティチュ・フランセ日本｜**助成：**アンスティチュ・フランセパリ本部、ユニフランス｜**アンスティチュ・フランセ日本　映画プログラム　オフィシャル・パートナー：**CNC｜**フィルム提供及び協力：**セテラ・インターナショナル、セルロイド・ドリームス、レ・フィルム・デュ・ロザンジュ、ゴーモン、株式会社アイ・ヴィー・シー、LCJ Editions & Productions、マーメイド・フィルム、SND、合同会社是空
Hommage à Jane Birkin ; organisé par l'Institut français du Japon|**avec le soutien de :** Institut français, CNC | **merci à** Cetera International, Celluloid Dreams, les Films du Losange, Gaumont, IVC, Ltd, LCJ Editions & Productions, Mermaid Films, Société Nouvelle de Distribution, Zeque Productions, LLC

JANE BIRKIN

ジェーン・バーキン追悼上映特集 Hommage à Jane Birkin

2023年7月16日、76歳で逝去したジェーン・バーキン。その訃報を受けた私たちは悲しみに包まれました。音楽、ファッション、映画、演劇、あらゆる分野でジェーンはつねに私たちとともにあり、私たちの人生を彩ってきたからです。この特集では、60年代から2000年代まで、ジェーンが出演した6本の作品とともに彼女の映画女優としての軌跡を辿り、そのたぐいまれな才能、魅力をあらためて確認します。

上映作品 Programme（すべて日本語字幕付）

2/23(金・祝)12:30 | 2/24(土)17:30

太陽が知っている *La Piscine*

[フランス/1969年/123分/カラー/デジタル]
監督：ジャック・ドレー
出演：アラン・ドロン、ロミー・シュナイダー、ジェーン・バーキン、モーリス・ロネ

ジャン＝ポールとマリアンヌは理想的な夫婦で、サントロペの別荘で幸せに暮らしていた、ハリーが娘の魅力的なペネロペを連れてやってくるまでは…。ジェーンが演じるのは、ロミー・シュナイダーが演じたマリアンヌの元恋人の娘で、アラン・ドロンが演じるジャン・ポールと親しくなっていく18歳のペネロペを演じた。これが初のフランス映画への出演となった当時22歳のジェーンは天真爛漫かつミステリアスな娘の役を魅惑的に演じている。衣装はクレージュが担当。

©DR

2/18(日)12:45 | 2/24(土)15:15 | 2/25(日)11:00

ジュ・テーム・モワ・ノン・プリュ *Je t'aime moi non plus*

[フランス/1975年/90分/カラー/デジタル]
監督：セルジュ・ゲンズブール
出演：ジョー・ダレッサンドロ、ジェーン・バーキン、ユーグ・ケステル

1969年に発表し、あまりにも官能的な歌詞と表現が物議を醸すとともに大ヒットしたデュエット曲をモチーフに、セルジュ・ゲンズブール自らが初監督した同名映画。ピエール・グランブラ監督の『スローガン』(1969)の撮影現場で出会ったジェーンとセルジュのラブストーリーは芸術的二人三脚とほぼ同時に始まり、とくに本作はふたりの映画の最高傑作となった。ジェーンが演じたのは、ゲイのトラック運転手（ウォーホルのアイコン、ジョー・ダレッサンドロ）と惹かれ合うアンドロジナスな魅力を持つウェイトレス、ジョニー。4K修復版。

© 1976 STUDIOCANAL - HERMES SYNCHRON All rights reserved

2/23(金・祝)17:45

ラ・ピラート *La Pirate*

[フランス/1984年/90分/カラー/デジタル]
監督：ジャック・ドワイヨン
出演：ジェーン・バーキン、マルーシュカ・デートメルス、フィリップ・レオタール

夫と暮らすアルマのもとに元恋人のキャロルが現れ、アルマを連れ去る。妻の行方を追うアルマの夫、追跡を手伝う夫の友人、そしてキャロルに同行する謎めいた少女までもがアルマに強く惹かれ、5人の関係がもつれ合う。アルマの夫を演じたのは、ジェーンの実兄で映画監督のアンドリュー・バーキン。カンヌ国際映画祭コンペティション部門で上映され、物議を醸すが、その後、映画ファンの間でカルト的人気を博す。間違いなくジェーンの代表作の一本と言える本作でセザール賞の主演女優賞に初ノミネートされた。

©DR

2/18(日)15:00 | 2/24(土)13:00

右側に気をつけろ *Soigne ta droite*

[フランス/1987年/81分/カラー/デジタル]
監督：ジャン＝リュック・ゴダール
出演：ジャン＝リュック・ゴダール、ジャック・ヴィルレ、ジェーン・バーキン、フランソワ・ペリエ、リタ・ミツコ

リタ・ミツコのアルバム『ノー・コンプレンド』のレコーディング・セッションを撮影した傑作ドキュメンタリーと、フランスの喜劇俳優たち（ラヴァナン、ガラブリュ、ヴィルレ）を起用した現代フランスの笑劇で織り成され、コミック漫画のように、冒険活劇のように展開していく。ジェーン・バーキンは、ラ・フォンテーヌの寓話に登場するセミ役でワンシーンに登場。1987年ルイ＝デリュック賞受賞。

©DR

2/25(日)13:15

美しき諍い女 *La Belle noiseuse*

[フランス/1991年/240分/カラー/デジタル]
監督：ジャック・リヴェット
出演：ミシェル・ピコリ、エマニュエル・ベアール、ジェーン・バーキン、マリアンヌ・ドニクール

老画家の屋敷を若手新進画家が訪ねてくる。彼の恋人を見た老画家は、10年間中断していた野心作"美しい諍い女"の制作再開を決意する。ジェーンは『放蕩娘』(1981)で共演したミシェル・ピコリが演じる画家フレンホーフェルの妻リズを演じた。エマニュエル・ベアール演じるモデルと画家との創作シーンの裏にあるジェーンとピコリの夫婦関係は本作のもうひとつの、あるいは真の核となっている。「美しい台詞をいまでも覚えています。『最初は、彼は私を愛していたから私を描いた。今、彼は私を愛しているから、もう私を描かない』」（ジェーン・バーキン）

©DR

2/18(日)17:15 | 2/25(日)18:15

ジェーン・バーキンのサーカス・ストーリー *36 vues du pic Saint-Loup*

[フランス/2009年/84分/カラー/35mm]
監督：ジャック・リヴェット
出演：ジェーン・バーキン、セルジオ・カステリット、アンドレ・マルコン、ジャック・ボナフェ

夏の巡業の前夜、小さなサーカスの創業者でありオーナーが突然死去する。シーズンを乗り切るために、団員たちは故人の長女ケイトを呼び寄せる。そのケイトがひょんなことで知り合いったイタリア人ヴィットリオは、サーカスを毎晩観賞し、団員と交流しながら、ケイトが15年前にサーカスを去った理由を知ることになる。惜しくも遺作となった本作にはリヴェットの演劇についての主題が見事に反響しており、軽いタッチながらも人生についての奥深い作品となっている。『地に堕ちた愛』、『美しき諍い女』と共に歩んできた女優のひとりジェーン・バーキンがリヴェット映画の幕を閉じることになる。東京国際映画祭での上映時の邦題は『小さな山のまわりで』。

©DR

2/23(金)15:30–17:00

映画のアトリエ（講師：坂本安美）｜ジェーン・バーキン、笑いと涙の間で

L'Atelier cinéma par Abi SAKAMOTO｜Jane Birkin, actrice entre comédie et tragédie

イギリス生まれのジェーン・バーキンは、リチャード・レスターの『ナック』(1965)、そしてミケランジェロ・アントニオーニの『欲望』(1966)で鮮烈な映画デビューを飾り、スウィンギング・ロンドンのポップ革命のシンボルになります。フランスに渡ったジェーンはセルジュ・ゲンズブールと出会い、伝説的カップルに。その後大衆的なコメディ映画で人気を博した後、『放蕩娘』(1981)でジャック・ドワヨンによってドラマチックで、より悲劇的な気質を引き出され、『ラ・ピラート』では、その情熱的な個性をひときわ輝かせていきます。ジャック・リヴェットとの遊び心あふれるファンタジー、アニエス・ヴァルダとの素晴らしいコラボレーション、そしてアラン・レネやジャン＝リュック・ゴダールの作品への特別出演も忘れられません。それぞれの監督とかけがえのない共犯関係を結び、一つひとつの役を抱きしめてきた女優ジェーン・バーキンのフィルモグラフィーを抜粋とともに辿ります。

agnès b.

アニエスベー渋谷店
Hommage à Jane Birkin

ジェーン・バーキンを
追悼した展覧会を開催します。

［会期］ **2月10日(土)〜3月12日(火)**
［会場］ **アニエスベー渋谷店 3F**
agnès b. CAFÉ
〒150-0001
東京都渋谷区神宮前6丁目19–14 3F

入場無料